

第1回策定委員会における主なご意見への回答

関連施策	ご意見等の要旨	回 答
<p>基本目標1 施策1 いつまでも元気で暮らせる 介護予防・健康づくりの推進</p>	<p>○高齢者がますます増加することを考えると、「健康づくりの啓発・推進」は第8期計画でもとても重要な課題と思う。</p> <p>○検診を面倒と感じる人も多いかもしいので、更なる広報活動(例えば、大型のスーパーやショッピングモールなどを利用した広報など)が必要だと思う。</p> <p>○退職後に大病をされて医療費の負担増の上に、自分らしい日常生活が送られないなどの話も聞くので、広報活動や介入の時期は早期から必要かと思う。</p> <p>○元気な高齢者が活躍できる社会の実現は、若い世代にも良い影響をもたらせると思う。高齢になっても愛着のある地元で、社会とつながり、役割を持ちながら生活をしている高齢者の方が身近にいと、徳島市の地域づくりの施策に関心を持つ機会が生まれ、また、信頼度が増すと思う。</p>	<p>○特定健康診査の広報活動については、毎年3月下旬に特定健康診査等の案内を記載した「国民健康保険だより」を各社新聞に折り込み、受診期間の7月から12月まで毎月1回「広報とくしま」に受診勧奨の記事を掲載し、連携協定を結んでいるコンビニエンスストアや徳島市庁舎内へのポスターを掲示する等を行っています。また、イオンモール徳島及び大型スーパーにも特定健康診査受診勧奨のポスターを掲示し広報活動を行っています。</p> <p>○がん検診の広報については、対象者への通知を行うとともに、本市ホームページ・広報とくしま・ラジオ・メールマガジン等の媒体による周知を行っています。また、各地区における健康教育・訪問指導の際に啓発活動を行っています。その他、大学の学園祭におけるPR、がん検診受診を勧める標語の公募、大型スーパーやショッピングモール、コンビニエンスストア、調剤薬局等にポスター掲示とチラシの設置を依頼しています。</p> <p>○今後の取組として、これまで積み重ねてきた知識や経験・技能を生かしつつ、社会とつながり役割を持ちながら生活をしている身近な方々を広報紙やパンフレットなどで紹介することで、幅広い世代に関心をもってもらえる広報を心掛けたいと考えています</p>

関連施策	ご意見等の要旨	回 答
基本目標1 施策2 生きがいのある地域づくり と「社会参加」の促進	<p>○人と人との輪、交流を深めることによって、お互いに様々な情報も得ることができ、知識も増え、また健康にもつながっていく。</p> <p>○毎日が楽しく、いつまでも若々しく元気な老後を送ることができたら素晴らしいことだと思う。</p> <p>○人々と交わりをもつことが大事である。</p>	<p>○第8期計画では、体操などの地域の通いの場の取組等により、地域でのつながりを推進しつつ、これまで積み重ねてきた知識や経験・技能を生かし、社会参加ができる地域づくりを目指します。そして、個々の状況に応じた選択肢について、情報提供できるように、多様な地域情報を収集するとともに、広報紙やパンフレット、講演会などでさまざまな手段での情報発信に努めたいと考えています</p>
基本目標1 施策4 安心して暮らすこと ができる支え合いの地域づくり	<p>○認知症高齢者の増加に対応するため、「成年後見制度」への取組について計画 に盛り込んではいかがでしょうか。</p> <p>○「地域づくり」について、厚生労働省作成資料（当日配布資料「これからの地域づくり戦略」3部作）は良いので、積極的にPRしてほしい。</p>	<p>○「成年後見制度」への取組について、施策4「安心して暮らすことのできる支え合いの地域づくり」（3）「高齢者の権利擁護の普及啓発及び利用支援」に盛り込みました。また、施策5「認知症の人が希望をもって暮らせる共生の地域づくり」では、施策4を通じた認知症バリアフリーを推進することとしています。</p> <p>○厚生労働省「これからの地域づくり戦略」3部作について、庁内の策定会議で配布するとともに、計画素案に抜粋して掲載しました。また、現在は、自立支援ケア会議の際に、該当箇所を関係者に提示しており、他の事業にも広げていきたいと考えています。</p>

関連施策	ご意見等の要旨	回 答
<p>基本目標 1 施策 4 安心して暮らすことができる 支え合いの地域づくり</p>	<p>○医療と介護の連携が進み、在宅生活が継続できる高齢者が増加することを鑑みると、「住まい」の安全安心は、今後ますます重要となる項目だと考える。</p> <p>○第8期計画においても「地域で安心して暮らすための支援」をさらに充実するよう検討をお願いしたい。</p> <p>○持ち家では、「住宅改修費」や「高齢者住宅改造費」等の資金援助に加え、ソフト面での支援の充実とし、地域包括ケアシステムにおける徳島市住生活基本計画の位置づけや、「住宅改修支援事業」と地域包括支援センターの連携、ケアマネジャーと徳島県建築士会（バリアフリー研究会）所属の建築士との連携などが考えられる。</p> <p>○賃貸住宅では、「住宅確保要配慮者あんしん居住促進事業」や不動産団体との連携等によりセーフティネットの充実が必要だ。</p> <p>○徳島市地域防災計画に関連した「避難支援体制の整備」では、福祉の専門職が介護認定やケアプラン作成等の住宅訪問時に、防災の観点から要支援者の住まいのチェックを簡単に行える仕組みがあればよいと思う。</p>	<p>○住生活基本計画との関係については、他の計画との関係に記載しています。地域包括ケアシステムの「住まい」について、施策4「安心して暮らすことのできる支え合いの地域づくり」(5)ニーズに応じた施設・住まいの支援に盛り込みました。</p> <p>○「住宅改修支援事業」については継続しつつ、新たに作成する「高齢期の健康で快適な住まいづくり」のリーフレット配布の機会を通じて、広く周知できればと考えています。また、退院時に活用もらえるよう、病院等への周知を図ることを検討しています。</p> <p>○住宅確保要配慮者等が民間賃貸住宅に円滑に入居できるよう推進する「徳島県居住支援協議会」に本市も参加しています。高齢者の住まいについて広報する際の参考にしたいと考えています。</p> <p>○防災の観点からの要支援者の住まいのチェックが簡単に行える仕組みについて、「徳島市家具転倒防止対策推進事業」で、ポイントを記載するチラシがあったので添付しています。第8期計画においては、同事業を盛り込むとともに、防災部局と高齢福祉部局の連携において、介護支援事業所に情報提供をしていきたいと考えています。</p>

関連施策	ご意見等の要旨	回 答
<p>基本目標2 施策 介護保険事業の円滑な運営 (介護人材の確保)</p>	<p>○介護サービス事業所実態調査の結果において、介護従事者の採用が困難である原因として、「介護職を志す若者の減少」が挙げられているが、若者に限らず、対象年齢の幅を広げ、人材確保を推進する必要がある。</p> <p>○また、介護サービス事業所実態調査の結果、介護従事者の過不足の状況について、「過剰」と回答した事業所がわずかにあるが、「過剰」と回答した事業所では、どのような対策をとっているのか。</p>	<p>○介護人材の確保では、ハローワークと連携した介護職への就労希望者と介護事業者のマッチングの実施や、広報紙やホームページ等を活用した介護職のイメージアップ等の人材の確保・定着の支援を行っていきます。</p> <p>○介護従事者の過不足の状況について、「過剰」と回答した事業所において従業員定着促進のために行った方策で効果があったものとして、「賃金・休日などの労働条件の改善」「休暇の取りやすい職場環境の充実」が挙げられています</p>